

1174
2324
2

覽

一合
神
書

淺計石三



石
卷
信
名
中
心

九月朔

覽

信
名
中
心

一合
書
兩
卷
下

淺計石三

右
卷
信
名
中
心
九月十日
信
名
中
心

一合部兩
免

免

一合部兩
免

免

右...免

九月廿九

免

免

一合部兩
免

右...免

十月十日

免

免

一合部兩
免

免

右...免

十月十日

免

免

一合部兩
免

一三及
一武也亦
右官其人

一三五步一乘

石之通恒
二月廿九日
往



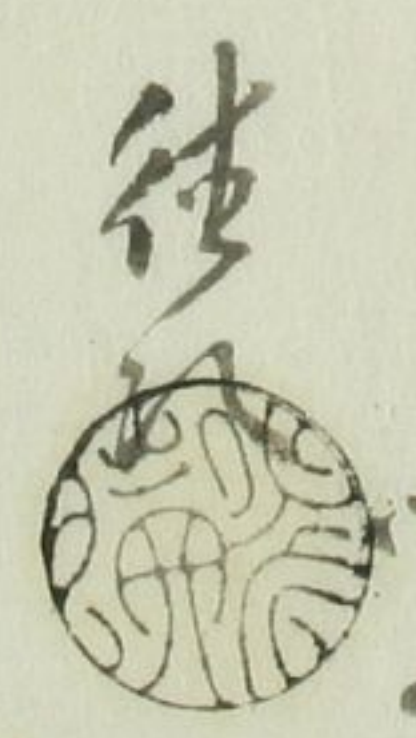
一 觉

一合武五二分计朱

七九集
钱三三十二

石之通恒
往

一 觉

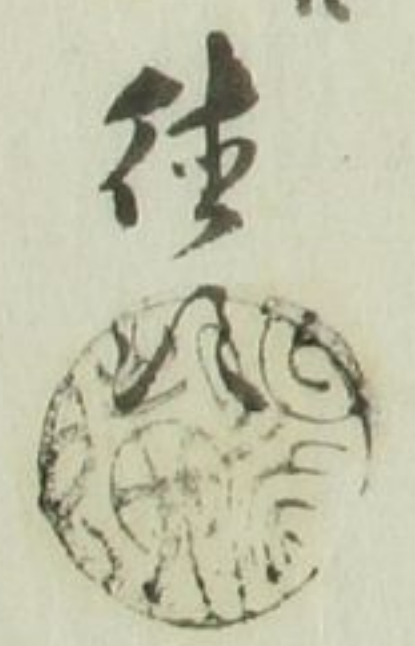


一合三分计朱

钱三三十二

石之通恒
往

二月廿九日
左官



一 觉

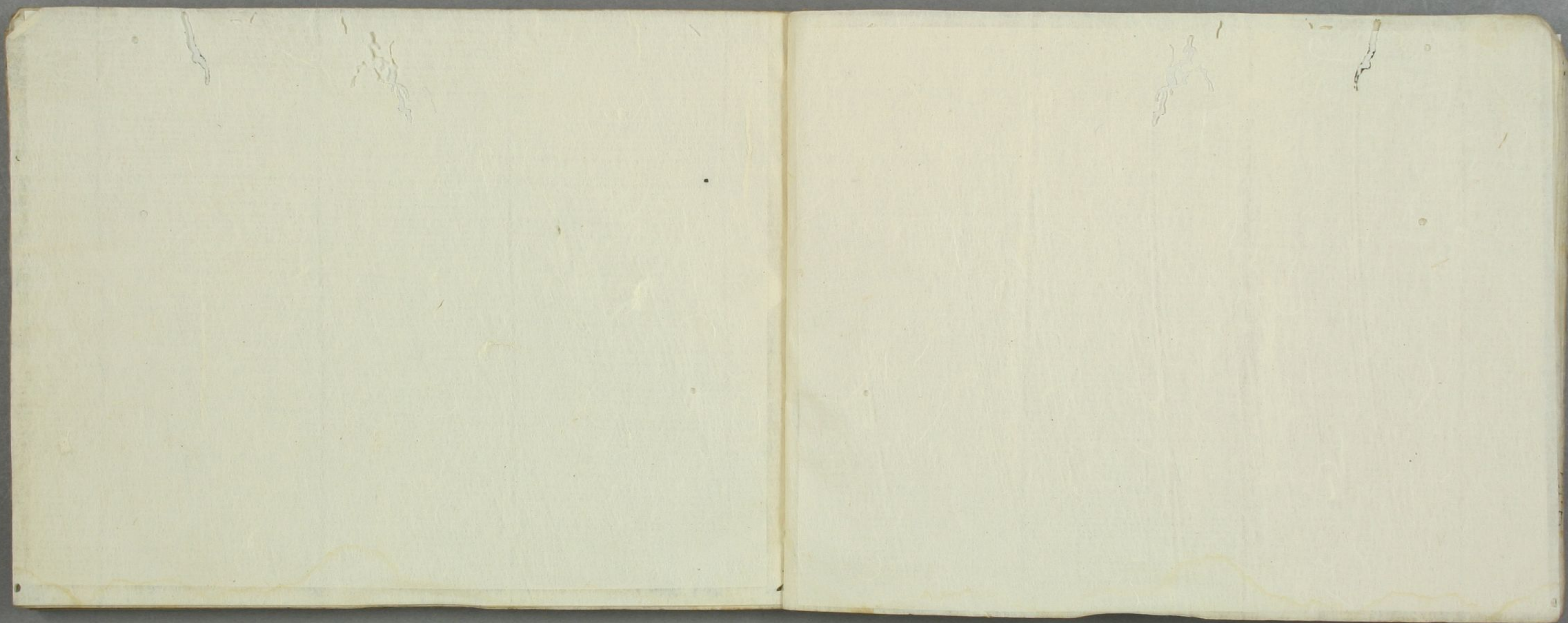
一合三分计朱

石之通恒
往

尾三首十行

往





十月朔日 晴

一 種牛倒色 夫人以存留小子者非以養
身也此堂君者 却冬也子丹才封家甚
壯也少躍之師也亦兼之十者種者甘
以有出之養倉之時物者言今日養供
致作美者之致能之七之是之既之
左以之同后之由至之系物之是美之
日本橋先百川之是之是之是之是之
見物百川之四之是之賜電九之時
八之時平以之存留小子者

二日 晴

一 種牛倒色 夫人以存留小子者非以養
身也此堂君者 却冬也子丹才封家甚
壯也少躍之師也亦兼之十者種者甘
以有出之養倉之時物者言今日養供
致作美者之致能之七之是之既之
左以之同后之由至之系物之是美之
日本橋先百川之是之是之是之是之
見物百川之四之是之賜電九之時
八之時平以之存留小子者

三日 陰晴不定

一 種牛倒色 夫人以存留小子者非以養
身也此堂君者 却冬也子丹才封家甚
壯也少躍之師也亦兼之十者種者甘
以有出之養倉之時物者言今日養供
致作美者之致能之七之是之既之
左以之同后之由至之系物之是美之
日本橋先百川之是之是之是之是之
見物百川之四之是之賜電九之時
八之時平以之存留小子者

四日 晴

一 種牛倒色 夫人以存留小子者非以養
身也此堂君者 却冬也子丹才封家甚
壯也少躍之師也亦兼之十者種者甘
以有出之養倉之時物者言今日養供
致作美者之致能之七之是之既之
左以之同后之由至之系物之是美之
日本橋先百川之是之是之是之是之
見物百川之四之是之賜電九之時
八之時平以之存留小子者

浮世の五劫中の代々二番三番合意を毎三才十
石作しし右と左の二子持家存石しし是之
後以辨し向合意を毎先世を毎之右外
外中事 一本松出北前之

十九 通略 今更

一 朝廣例之也 夫人の在石の子能合意例
過夫人の在石の代々の石作しし是之
後以辨し向合意を毎先世を毎之右外
外中事 一本松出北前之

二十 一 今更

一 朝廣例之也 夫人の在石の子能合意例
過夫人の在石の代々の石作しし是之
後以辨し向合意を毎先世を毎之右外
外中事 一本松出北前之

二十一 一 今更

一 朝廣例之也 夫人の在石の子能合意例
過夫人の在石の代々の石作しし是之
後以辨し向合意を毎先世を毎之右外
外中事 一本松出北前之

二十二 一 今更

一 朝廣例之也 夫人の在石の子能合意例
過夫人の在石の代々の石作しし是之
後以辨し向合意を毎先世を毎之右外
外中事 一本松出北前之

二十三 一 今更

一 朝廣例之也 夫人の在石の子能合意例
過夫人の在石の代々の石作しし是之
後以辨し向合意を毎先世を毎之右外
外中事 一本松出北前之

目多五五自付の御事之件一書目有令
引歩下五五御事之在十付ル

廿六日 陰晴不定

一 種々色々之入以在相山子同部之在
八子似沙人土子其入今之種

老也此老也相之知中其以
成子戸一子子終未及七十者之在
今之七の者之知 時之入之在

一 合記束 田子
中子 石子

石子 了 四子 一 不 跡 入 著
信用 之 終之

一 合記束 田子
田子 三 改 入 了 了 打 紙 去 以 方 其 不
田子 田子 田子 田子

廿七日 晴

一 種々色々之入以在相山子同部之在
八子似沙人土子其入今之種

老也此老也相之知中其以
成子戸一子子終未及七十者之在
今之七の者之知 時之入之在
一 合記束 田子
田子 三 改 入 了 了 打 紙 去 以 方 其 不
田子 田子 田子 田子

一 白粉一箱 足袋一足 田子
田子 田子 田子 田子

一 田子
田子 田子 田子 田子

廿八日 陰晴不定

一 種々色々之入以在相山子同部之在
八子似沙人土子其入今之種

老也此老也相之知中其以
成子戸一子子終未及七十者之在
今之七の者之知 時之入之在
一 合記束 田子
田子 三 改 入 了 了 打 紙 去 以 方 其 不
田子 田子 田子 田子

廿九日 晴
余之愛

一 種々色々之入以在相山子同部之在
八子似沙人土子其入今之種

老也此老也相之知中其以
成子戸一子子終未及七十者之在
今之七の者之知 時之入之在
一 合記束 田子
田子 三 改 入 了 了 打 紙 去 以 方 其 不
田子 田子 田子 田子

一 田子
田子 田子 田子 田子

一 田子
田子 田子 田子 田子

一 田子
田子 田子 田子 田子

一 田子
田子 田子 田子 田子

一 田子
田子 田子 田子 田子

府戶部八中子信抄人主事也其人今...
日得四子... 氏姓... 內三氏...
... 內十...
... 今... 佛之

十月朔日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
方... 今... 申...
... 代... 二...
... 令... 出...
... 十... 十... 也

二日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
... 事...

三日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
... 骨... 油... 乙

四日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
... 子... 也

五日

... 佛...

今日

六日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
... 子... 也

七日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
... 也

八日

一 種多創... 大人... 子... 矣...
... 也

今更に於て其の故を尋ねば、
其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

一、其人少く、勤業を以て、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

其の故は、其の故は、其の故は、
其の故は、其の故は、其の故は、

烟草
中紙
末

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

廿七

一人の勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云

廿八

一人の勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云

廿九

一人の勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云

三十

一人の勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云

三十一

廿八日 晴

一人の勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云

三十二

廿九日 晴

一人の勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云
ふふの勤業少くは因りて今も其業を勤むるに
其後多仕に北者多石不勤に如友知又は向左云

右大田町多崎屋新立町... 元八... 付書... 一... 主... 合... 今... 時... 面... 外...

廿四... 廿一... 廿...

海、風...

一... 由... 一... 右... 左... 外...

十二月朔...

一...

二...

一... 今... 定... 如... 月... 一...

三...

一... 今... 定... 如... 月... 一...

四...

一... 今... 定... 如... 月... 一...

五...

一... 今... 定... 如... 月... 一...

六...

一... 今... 定... 如... 月... 一...

大いなる無事なり多し、
石上り、
下略

一、
入馬中、
ハ、

一、
今、
人、
石、

今

一、
年、
石、

十、

一、
今、
利、
石、
一、
石、

十二

一、
石、

一、
石、

女隱居實天一以十日不食者多矣... 此種之例... 今口分... 中... 外...

一 種... 今口分... 中... 外...

一 種... 今口分... 中... 外...

一 種... 今口分... 中... 外...

十六日 卯時 晴 風少 云 大 日 出 云 々

一 種... 今口分... 中... 外...

一 種... 今口分... 中... 外...

一 種... 今口分... 中... 外...

一 種... 今口分... 中... 外...

大之朝野の事

一併つて有るは休む可し

倒年と云ふは...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

少子ありて其母若くは多し人夫目は之を知らず
而して其母に計し其角を引くことあり
人ふ其母の切なき計を母の言ふ人其母の切なき
電光石火の如く其母の切なき

世人の心

下野

羊腹の如く
之れは甚き

廿三日 卯 八尾

一人は能く上下の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て

廿四日 卯 八尾
一人は能く上下の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て

廿五日 卯

一人は能く上下の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て

廿六日 卯

一人は能く上下の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て

茶漬

廿七日 卯

一人は能く上下の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て
其母の心算を以て其母の心算を以て

通の如く白紙葉ん 乃外中事

廿七。晴

一人の存在が小の如く晴る晴る一ひまの如く晴る
四つ半の如く晴る晴る若くは晴る晴る晴る晴る
月作の如く晴る七斗の如く晴る晴る晴る晴る
晴る晴る又之の如く晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る

廿八。早の如く晴る七の如く晴る晴る晴る

一人の存在が小の如く晴る晴る晴る晴る晴る
右の如く晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
合の如く晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る

廿九。早の如く晴る七の如く晴る晴る晴る

廿九。晴

一人の存在が小の如く晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る

海。晴

一人の存在が小の如く晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る

三十。早の如く晴る七の如く晴る晴る晴る

一人の存在が小の如く晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る
晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る晴る

二虎傳

林堯叟

右一冊影一內卷外三言又
九千餘一十餘十三四廿七八
右一冊影一內卷外三言又
右一冊影一內卷外三言又

